採集記録・観察記録

浦幌のウチダザリガニ駆除（2018・2019年）

円子 紳一[1)]

Shinichi Maruko, 2020. The extermination of *Pacifastacus luniusculus trowbridgii* in Urahoro, easten Hokkido, 2018·2019
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 20: 31-32.

はじめに

「浦幌の自然を楽しむ会」によるウチダザリガニ *Pacifastacus luniusculus trowbridgii* 駆除は５年を経過した。この間、年間の駆除回数が大きく変わらないのに、駆除頭数は増加傾向にある（表１参照）。駆除頭数増の要因として考えられるのは､捕獲用具の充実、生息環境の理解による捕獲技術の向上などがある。

捕獲用具は、カニカゴ３個は2015年から継続使用だが、たも網は15年の３本から16年に10本、17～19年は15本使用した。

捕獲技術は、駆除開始時にはどんな所に潜んでいるのか、どのようにたも網に追い込むかなど手探り状態だったが、経験を積むことで少しずつコツがつかめるようになっていった。

2018年・秋の旧オベトン川で大量に確認

2018年７月28日の「ウチダザリガニ　バスターズ」に参加した小学生が、後日、森林公園内で捕獲した個体が何かわからず博物館に持ち込んだ。紛れもなくウチダザリガニであった。発見場所は同公園の沢で、市街地区を通過し下流で浦幌川に合流する旧オベトン川の上流域だった。この流域では初めての確認だったので、生息状況の調査を行った。

９月17日に持田誠学芸員と円子が、旧オベトン川と浦幌川の合流地点から森林公園からの合流地点（以下公園橋という）までを遡った。浦幌川との合流地点は落差工があった。流れの落ち際から100メートルほど上流まで、浦幌中学校正門前の学園橋（ここは深めの汚泥状態)、公橋橋の３カ所でウチダザリガニ132匹の生息を確認した。特に公園橋では69匹を捕獲した。

９月21日に吉原敬司氏と円子が森林公園の合流地点で116匹を捕獲。10月８日には吉原氏が474匹、円子が46匹の合計520匹を捕獲した。円子は町民球場横までの約80メートルを遡ったところ、上流に向かうほどに生息密度は低下し、２個目の落差工付近では確認出来なかった。11月17日は佐藤芳雄氏と円子でこれまでで一番遅い時期の駆除作業となったが、6匹の捕獲にとどまった。既に冬眠用の穴に入ったのだろうと思われた。

2019年・春の旧オベトン川でも大量に確認

19年は浦幌川でカニカゴ４回、オベトン川でたも網３回（同時にカニカゴＩ回)、旧オベトン川でたも網２回の駆除作業を行った。

５月12日の旧オベトン川では公園橋付近で201匹とやはり大量捕獲となった。アイスアリーナ奥の小沢

表1　捕獲数の推移

単位：匹

性別	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	計
♂	55	60	78	101	74	368
♀	45	103	90	347	169	754
不明	11	37	124	738	298	1, 208
計	111	200	292	1, 186	541	2, 330

1) 浦幌の自然を楽しむ会（〒089-5634 北海道十勝郡浦幌町字帯富）

には以前(今も？)、ニホンザリガニが生息していた(未発表)。森林公園とは峰を隔てて同じ水系である。

北海道と浦幌町では、2004年に策定した「浦幌都市計画区域の整備・開発及び保全の方針」の見直しを進めている。その素案には「浦幌川、オベトン川及び旧オベトン川を主とする河川については、各種開発事業等との調整を図りつつ、総合的な治水対策を促進するとともに、親水機能にも配慮した自然と触れ合う水辺空間の活用や、総合的な治水対策等に努める」とある。

ウチダザリガニが大量に生息している公園橋地点は、ガマが生育していて根元は格好の棲みかとなっていると思われる。ここから浦幌川との合流点までは、ほぼ全域で川底は汚泥状態で足を踏み入れることも難し箇所が多い。汚泥対策だけでもウチダザリガニの生息に不向きな環境を作り出せるのではないか。また、水流の回復は悪臭対策にもつながり、生活環境も良好になると考えられる。この地域がどのように推移するか注目して行きたい。

おわりに

浦幌町に特定外来生物のウチダザリガニが生息していることを子どもたちに伝える「ウチダザリガニ　バスターズ」を2016年から行っているが（円子 2017、2018)、これからも継続することで子どもたちに浦幌の自然の一端を知ってもらいたいと思う。また、2020年３月には町の「笑顔輝く地域づくり支援事業」の活用でウチダザリガニの生態などを解説したクリアファイルを作製。町内４小・中学校の児童生徒に配布し啓蒙した。

町内の河川でのウチダザリガニによる被害などは確認できていないが、ニホンザリガニとの接触が憂慮されることから、小さな活動であるが引き続き駆除活動を進めて行きたい。

駆除活動の中心となっている「浦幌の自然を楽しむ会」のみなさん、町立博物館の持田誠学芸員、北海道ウチダザリガニ防除ネットワークの高橋克巳代表、齊藤さゆりさん、「ウチダザリガニ　バスターズ」に参加いただいたみなさん、野生動物保全技術実習を行った酪農学園大学の佐藤喜和教授や学生のみなさんに心から感謝申し上げる。

なお、本調査・駆除経費の多くは、浦幌町の「笑顔輝く地域づくり支援事業」の補助金を得て行われたものである。

引用文献

円子紳一．2017．浦幌のウチダザリガニ駆除（2016年）．浦幌町立博物館紀要．17：9-11

円子紳一．2018．浦幌のウチダザリガニ駆除（2017年）．浦幌町立博物館紀要．18：15-18